

## 座談会

## 整形外科プライマリケアを考える\*

片田重彦<sup>\*1)</sup> 石黒隆<sup>\*2)</sup> 住田憲是<sup>\*3)</sup>  
菊地臣一<sup>\*4)</sup>(司会)

1. 整形外科プライマリケアとは  
なにか

菊地(司会) 今日の座談会は「整形外科プライマリケアを考える」ということで、そもそものきっかけは片田先生と石黒先生が出版された『整形外科プライマリケアハンドブック』(南江堂, 2000年4月発行)という本です。この本は今までにない概念と、世の中に対する問いかけが含まれていて大きな反響を呼びました。いかにこういう本が整形外科医に待ち望まれていたか、あるいは運動器疾患に携わるコメディカルの人たちにも共感を持って受け入れられたということ、歴史的な本だと思っています。この本の登場で考えさせられたのは、整形外科プライマリケアという言葉がなぜ日本で出てきたのかということでしたが、その議論を整理するためにも整形外科とプライマリケアの組み合わせ「整形外科プライマリケア」という言葉がどんなことを意味するのかを規定する必要があると思うのです。

わが国と欧米の「整形外科」という言葉の指す意味を比較すると、欧米ではスペシャリストとしての整形外科で、極端なことを言えば保存療法は含まれない。保存療法や簡単な筋骨格系の疾患は、「プライマリケア、ファミリー・プラクティス」といわれる領域のスペシャリストが欧米ではやっている。日本の整形外科は筋骨格系の診断から治療まで、画像診断を含めて一

貫して自己完結の体制でやっている。わが国の整形外科の最大の特徴はそこにあると思うんです。今までは欧米で言うプライマリケアの領域である保存的治療から、診断、手術的治療までを一貫して手がけることによって、いい面ばかりが目立ってきたところが、最近はその問題点も目につくようになってきました。プライマリケアというのは1つの独立したスペシャリストの領域ですから、それだけのものをわが国の整形外科医が持っているのか、また、欧米の整形外科としてのスペシャリストに相当する技術やノウハウを持っているのか、さらに欧米では整形外科のリサーチはM.D.はほとんどやっていないのですが、日本ではM.D.がやっている。3つの役割を1人でやっているというのがわが国の整形外科の現状です。そこに問題点も集約されているのではないかと思います。

## □プライマリケアの概念

菊地 初めに、この本の執筆者である片田先生と石黒先生にわが国の整形外科の問題点を含めて「整形外科プライマリケア」についてお話しただいて、次に、整形外科プライマリケアを積極的に行っていらっしゃる住田先生にも同じような問いかけをしてみたいと思います。それでは片田先生から、整形外科のプライマリケアというのは、どういうイメージでこの言葉を使っているのでしょうか。

片田 今の日本の研修システムですと、いわゆる二次治療が主に行われる大学病院でまず研修を受けて、次に、いろいろな公的病院に行ってさらに研修を受け

\* 2001年9月2日収録、於：医学書院会議室

\*1) かただ整形外科院長

\*2) いしぐる整形外科院長

\*3) 望クリニック整形外科院長

\*4) 福島県立医科大学医学部整形外科教授

